

— 総括表 —		
◆ 事業計画		
<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性 港南中央地域ケアプラザの担当エリア(上大岡、笹下、日野第一)は鎌倉街道・環状2号線・笹下釜利谷道路の大きな3つの幹線道路に面し、地下鉄やバス等の交通網は充実していますが、その反面、主要道路の左右は急な山坡で道路幅も狭く、車が通れない場所もあることから、高齢者・障害児者・乳幼児をもつ親にとっては、外出や買い物等がしにくい状況が見られます。また、どの地区も高齢化率は区平均を下回っていますが、丁目別に見ると30%を超える地域もあります。住民相互の助け合い活動である「福祉ネットワーク」に関しては周知不足や担い手不足などの課題はありますが、どの地区も早くから活動が実施されており、住民同士の支え合い活動の土壌ができています。 当ケアプラザの担当エリアが広いこと、ケアプラザまで遠い方は足を運ぶ機会が少なく、ケアプラザの役割等の周知が十分行き届いていないことや、講座に参加できない現状があります。そのため、近隣の区民利用施設等と連携した講座や、出張相談を開催することで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知をすることや、相談がしやすい関係づくりを行っていきます。また、身近な場所での住民同士の交流のきっかけづくりや、自立支援のための拠点となる場所(介護予防教室等)を作っていきます。 高齢者の方が増えるにつれて、認知症の方も増えることが考えられます。地域や中学校等に認知症サポーター養成講座を継続して開催することで、多くの世代の方に理解を広げることや、企業等からの依頼がある「認知症の方に対する具体的な対応方法」についての講座も開催をしています。企業からの依頼は潜在的にもまだまだ見込まれると考え、業務にて認知症の方への対応に悩まれている生活に密接した企業・商店等へ働きかけて、さらなる講座の開催へ繋げます。地域の方に限らず、企業等が、地域の一員として、認知症についてより理解が深まることにより、認知症の方と家族が、安心して生活することができるように取り組みます。 また、高齢者の方が在宅生活を続けていくにあたり、介護保険だけでなく、医療機関との連携や、地域の方のゆるやかな見守り、介護保険外のサービスの活用など、様々な方との連携がより一層必要になってくると考えています。関係する方々と情報交換や困りごとの検討をする仕組みを作ることで、高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように取り組んでいきます。 地域福祉保健計画の推進については第4期の初年度となります。支援チーム会議の場を設けて、地域の方とともに計画に沿った取組をチームとして実現できるよう支援してまいります。コロナ禍ではありますが、感染予防策を実施しながら、目標に沿った事業を展開してまいります。		
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組		
新規	継続	— 具体的な取組内容 —
■	<input type="checkbox"/>	身近な場所で密を避けた少人数での居場所作りとしての事業開催をコミュニティハウス等、近隣の区民利用施設等と連携して行い、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知をすすめます。
■	<input type="checkbox"/>	今年度から導入されたWi-fiを、事業や会議等に積極的に利用していくことでICT活用をすすめ、コロナ禍における情報共有・交流について検討します。
■	<input type="checkbox"/>	認知症の方、家族、地域の方、専門職が立ち寄れる居場所をつくる。またその場において、認知症に関する情報が得られるようにする。
	<input type="checkbox"/>	地域の方々と介護、医療関係者と顔を合わせや、情報交換、困りごとについて一緒に考える機会を設けます。
	<input type="checkbox"/>	地域福祉保健計画の推進に関しては、コロナ禍で休止している取組の再開を含めて、計画に沿った取組を地域の方々とともにチームとして実現できるように、支援チーム会議にて、検討や情報交換を行います。
◆ 事業報告・事業実績評価		
<input type="checkbox"/> 振り返り 上大岡コミュニティハウス、地域町内会館で体操など介護予防講座等を実施することで地域の居場所とし、ケアプラザを利用のない方にも周知をすすめた。 講座・会議などでWi-fi・ZOOMを活用したことで、密を避け、遠隔地にいる講師・事業者等と情報共有ができた。またケアマネジャー研修をWi-fi活用し等複数回行った。 認知症のある当事者や家族が参加し、話をするところを、少人数で継続開催することでコロナ禍でも本人と家族のみで閉じこもらず、外出できる居場所を作ることができた。 見守りが必要なケースで個別の地域ケア会議を開催した。今後包括レベルの地域会議を開催していく予定。 地域福祉保健計画の推進に関しては、施設利用者にはアンケートで周知を図った。また、支援チーム会議にて、検討や情報交換を行い、ウィズコロナの計画の推進に努めた。		
<input type="checkbox"/> 区からのコメント コロナ感染拡大の影響で、思うようにサポーター養成講座が実施できませんでしたが、地域のキャラバンメイトとの定例会を定期的に開催し支援者のネットワークづくりに努めています。また、令和3年度からの新しい取り組みだった「ふらっとほーむ」では、地域の居場所を必要としている人の貴重な場所であると同時に、地域のボランティアの活動の機会になっています。ケアプラザで開催する意義はとて大きいと感じていますので、次年度以降もぜひ継続してください。介護予防に取り組む活動推進のため、積極的に地域出向き、地域での活動継続と自主化に向けた支援に取り組んでいただいています。 令和3年度もコロナ感染防止のため、諸室の貸出しや相談業務、各種事業の実施など年度を通じて流動的な対応が求められました。そうした中でも、地区別計画の推進を通じた地域づくりに向けて、区役所や区社会福祉協議会とも連携しながら、各種の取組にご尽力頂きました。引き続き、地域の皆様の期待に応えられるよう、適切・健全な施設運営をお願いいたします。		